

Wrong Number
(間違った番号)

P.110

(1)

ある夜、ジョン・ソウムズは家で読書をしていた。

Soames [固有名詞] ソウムズ

電話が鳴った。

彼は受話器を取って言った。

pick it up [熟語] 受話器を取る

「もしもし？」

hullo [間投詞] ももし

「そちらはウォーバーグの 4973 ですか？」相手が尋ねた。

Warburg [地名] ウォーバーグ

「いいえ、ウォーバーグの 3973 です。」ソウムズは言った。

「聞こえません、」相手は言った。「この電話は接続状態がとても悪い。」

This line is very bad. [熟語] この電話は接続状態がたいへん悪い

「ウォーバーグの 3973 です。」ソウムズは叫んだ。

「ああ、すみません。」相手は言った。「間違った番号にかけたに違いありません。」

I must have got the wrong number [熟語] 間違えた番号にかけてしまったに違いない

ソウムズは受話器を置き、本に戻った。

P.111

(2)

数分後、再び電話が鳴った。

ソウムズは電話に出た。

彼が受話器を取り上げるとすぐに、前と同じ声があった。

the same voice as before [熟語] 前と同じ声

「ビル、トムだ。全て……」

Bill, this is Tom [熟語] ビル、トムだよ。

「私はビルではありません。」ソウムズは怒ったように言った。

「あなたはまた間違った番号にかけたのです。もっと注意してください。」

彼は受話器を置いたが、彼が歩いて離れる前にそれは再び鳴った。

walk away [熟語] 歩いて離れる

彼は受話器を取り上げた。

「トム、聞いてください……」彼は言い始めたが、相手の声が彼を遮った。

「ああ、ビル、」それは言った。

「やっとお前をつかまえたよ。聞こえるか？まだ接続状態が悪いな。2回間違った番号にかけてしまったよ。さあ、聞くんだ、例の宝石のことだ。」

I've got you [熟語] やっと君に連絡がついた
the jewels [熟語] 例の宝石

「宝石？」ソウムズは言った。

「何……」そして彼は言葉を止めた。

彼はトムにまた間違った番号にかけたと言うべきだということは分かっていたが、「宝石」という言葉には興味深かった。

「あまりよく聞こえないんだ、」彼は言った。「宝石について何と言ったんだ？」